

**気管支鏡を用いた肺末梢病変の検体採取をサポート
「ガイドシース法」に対応したキット「ディスポーザブルガイドシースキット 2」を発売**

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、気管支鏡を用いて肺末梢部にガイドシースを留置し、検体採取を繰り返し行う「ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法」に対応した処置具「ディスポーザブルガイドシースキット2」を2019年2月8日(金)から国内で発売します。

本製品は、「ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(以下、EBUS-GS 法)」という手技で使う処置具です。本手技は、気管支鏡が届かない肺の末梢部に存在する病変の検体を採取するために行います。気管支鏡にガイドシースを挿入して末梢部に留置し、ガイドシースに超音波プローブや処置具を挿入することで、末梢部の病変の位置を特定したり検体採取を繰り返し行ったりすることが可能になります。

今回発売する「ディスポーザブルガイドシースキット 2」は、ガイドシース・生検鉗子の 2 点、もしくは細胞診ブラシを加えた 3 点からなるキットです。従来品に改良を加えたことにより、EBUS-GS 法のより確実な実施を目指します。

●発売の概要

製品名	発売予定日
ディスポーザブルガイドシースキット 2	2019年2月8日(金)

●主な特長

1. ガイドシースの耐久性向上により、目的部位へのスムーズなアプローチをサポート
2. ストッパの使い勝手向上により、セッティング時間の短縮に寄与



ディスポーザブルガイドシースキット 2

製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ㈱です。

●開発の背景

肺がんは国内がん死亡原因の第1位で、近年増加傾向にあります。CT装置の高性能化などに伴い、肺の末梢部に存在する微小病変が多く発見されるようになり、気管支鏡を用いた検体採取による確定診断の期待が高まっています。

気管支は奥に進むほど分岐する数が増えて細くなるため、気管支鏡の挿入が困難になります。気管支鏡が到達できないような肺末梢部の検体採取をより確実にを行うため、ガイドシースを用いたEBUS-GS法が実施されています。当社は2007年からEBUS-GS法に対応するキットを販売していますが、今回さらに性能を向上させたキットを開発し、検査の効率向上と患者さんの負担軽減に貢献します。

●主な特長の詳細

1. ガイドシースの耐久性向上により、目的部位へのスムーズなアプローチをサポート

今回、挿入時の負荷に強いガイドシースを採用したことにより、超音波プローブや処置具を目的部位へ挿入する際、よりスムーズなアプローチをサポートします。



2. ストップの使い勝手向上により、セッティング時間の短縮に寄与

ガイドシースに挿入した超音波プローブ・処置具を固定させるストップを、ガイドシース先端から鉗子挿通用管路の入口まで移動させるスライド方式から、任意の位置で固定できるクリップ方式に変更しました。クリップで挟むだけなので位置調整などが容易に行え、セッティング時間の短縮につながります。



【従来型】



【新型】



オリンパスは本年10月12日に創立100周年を迎えます。

これまで当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。これからも世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通して、社会に貢献してまいります。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。